霧 島 山

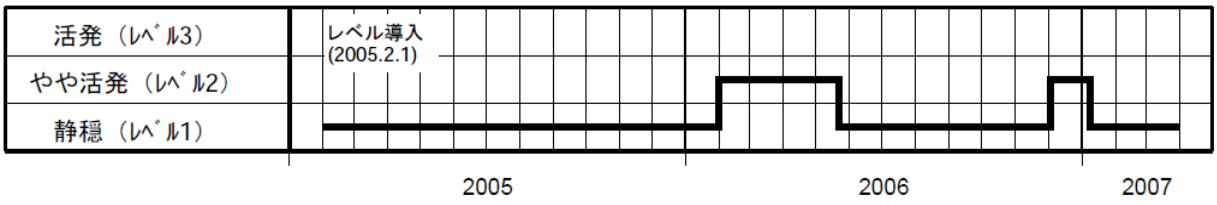
新燃岳

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル１）

火山活動に変化はなく、静穏な状況で経過しました。

2007 年１月９日以降、レベル１が継続しています。

火山活動度レベルの推移（新燃岳）



○ 概況

・地震、微動活動（表１、図２、図８）

火山性地震の発生回数は 93 回（２月：128 回）でした。地震の震源の多くは新燃岳付近の浅いところに分布しました。火山性微動は観測されませんでした。

・噴煙活動

遠望観測では火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

・地殻変動（図３、図４）

GPS による連続観測では、長期的に見ると高千穂-中岳、中岳-新燃山頂間で伸びの傾向が観測されています。

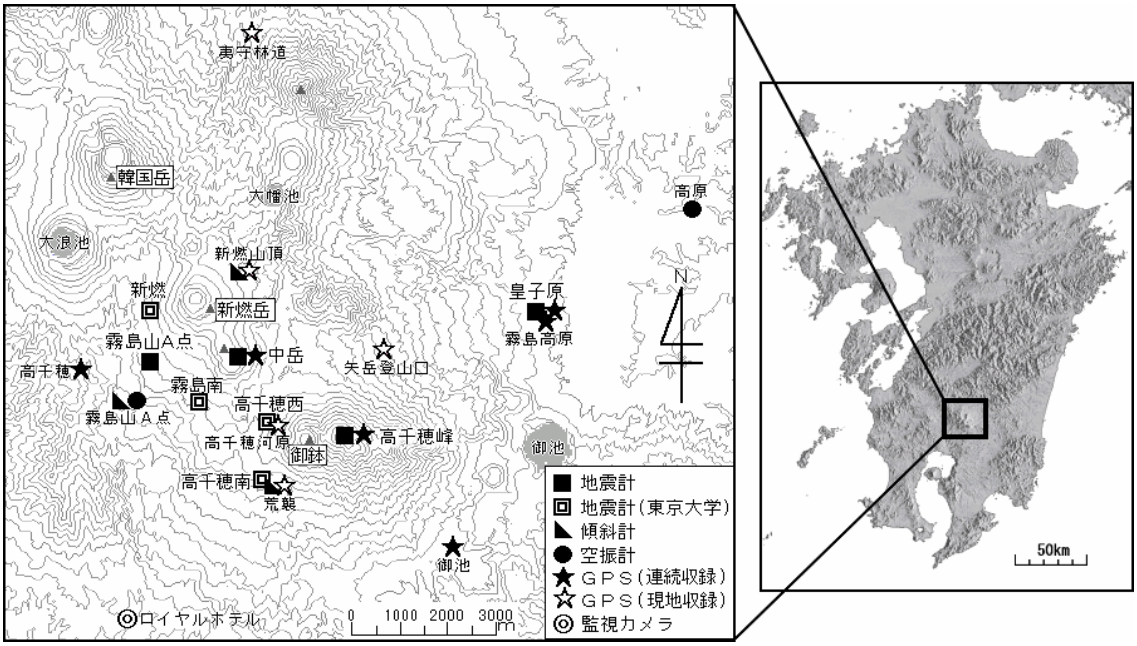


図１　霧島山　観測点配置図

※この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50ｍメッシュ（標高）、25000 分の１の地形図を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

表１　霧島山(新燃岳)　地震・微動回数（2006 年４月～2007 年３月）

2006～2007 年	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
地震回数	53	37	18	9	3	16	6	8	179	52	128	93
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

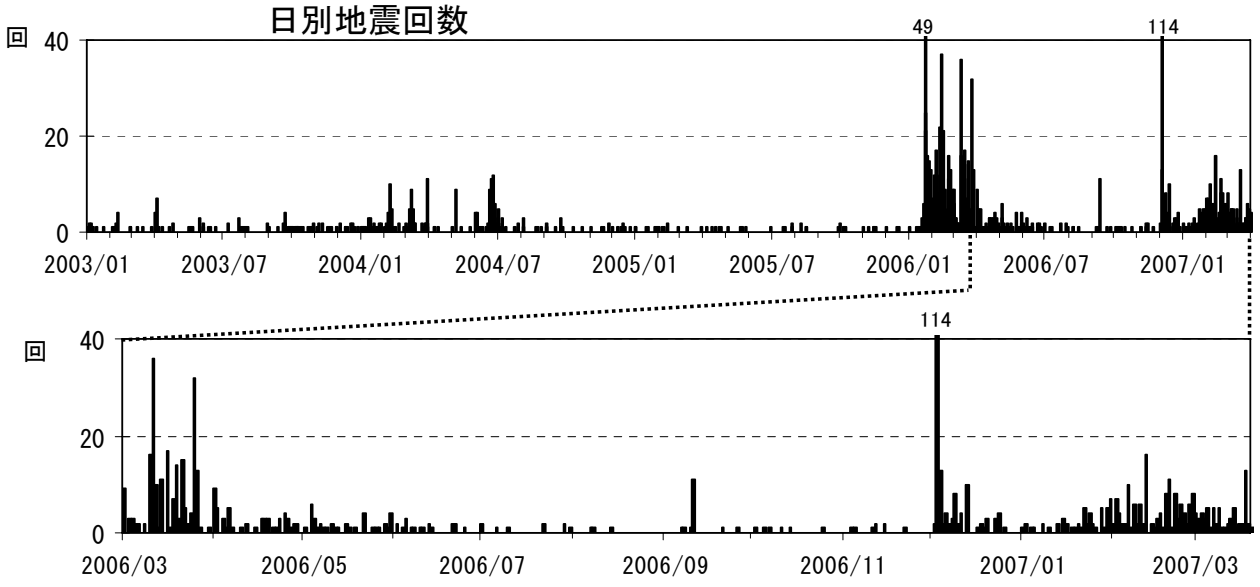


図２　霧島山(新燃岳)　地震活動経過図（2003 年１月～2007 年３月）

・３月の火山性地震の発生回数は 93 回(２月：128 回)でした。
・火山性微動は観測されませんでした。

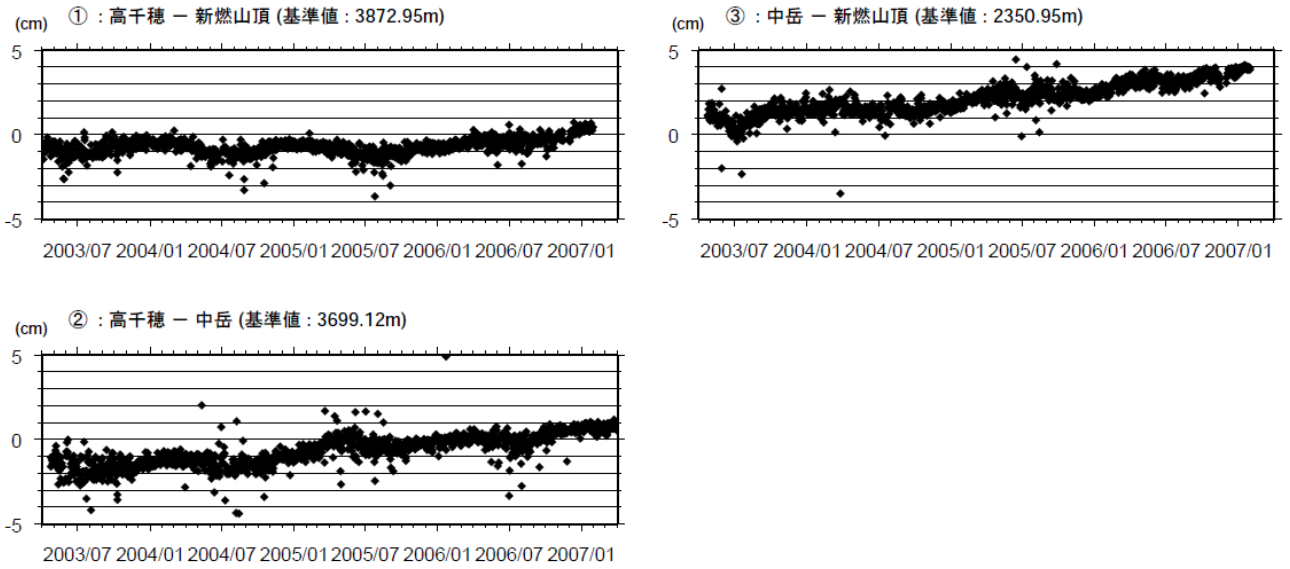


図３　霧島山(新燃岳)　GPS 連続観測による基線長変化（2003 年４月～2007 年３月）
長期的に見ると高千穂-中岳、中岳-新燃山頂間で伸びの傾向が観測されています。

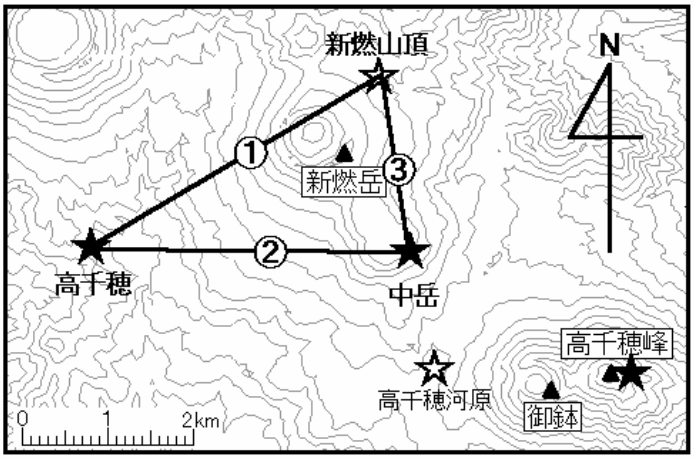


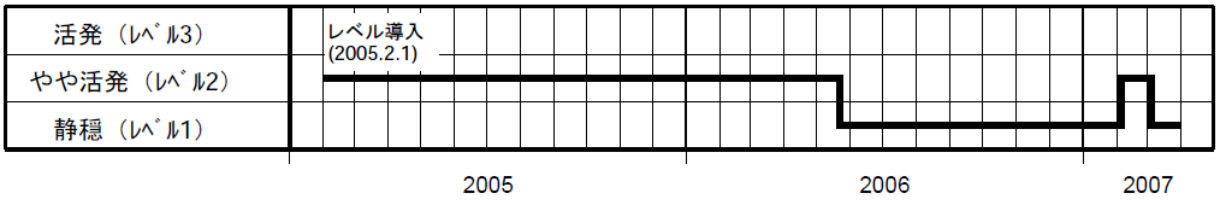
図４　霧島山(新燃岳)　GPS 連続観測点と基線番号
新燃岳を囲んだ３観測点の基線による観測を行っています。この基線は図３の①～③に対応しています。

御鉢

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル１）

２月５日に振幅のやや大きな火山性微動が発生しましたが、その後は振幅の小さなものが時々発生する程度で火山性地震も少なく、火山活動は静穏になったと判断し、３月５日にレベルを２から１に引下げました。

火山活動度レベルの推移（御鉢）



○ 概況

・ **地震、微動活動（表２、図５、図８）**

継続時間が短く、振幅の小さな火山性微動を８回(２月：３回)観測しました。火山性地震は６回(２月：４回)と少ない状態でした。

・ **噴気活動（図５）**

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

・ **地殻変動（図６、図７）**

GPS 連続観測による地殻変動観測では、長期的には高千穂峰や中岳の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

表２　霧島山(御鉢)　最近１年間の地震・微動回数（2006 年４月～2007 年３月）

2006～2007 年	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
地震回数	4	8	9	16	8	7	6	5	9	10	4	6
微動回数	2	2	3	0	0	0	0	0	1	12	3	8

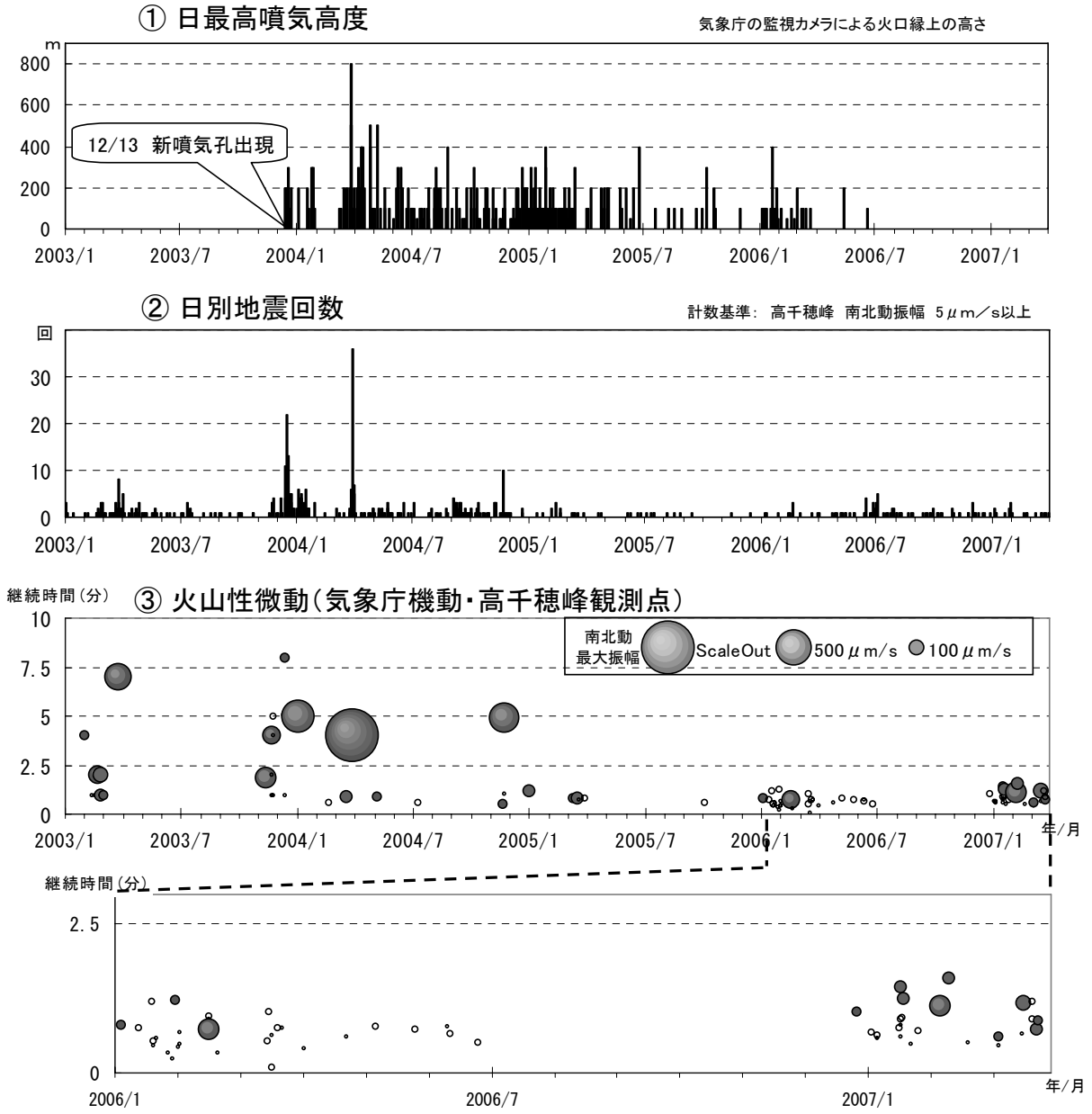


図５　霧島山（御鉢）　火山活動経過図（2003 年１月～2007 年３月）

・監視カメラでは、火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
・火山性地震は少ない状態が続いています。
・継続時間が短く、振幅の小さな火山性微動を８回観測しました（２月 : ３回）。

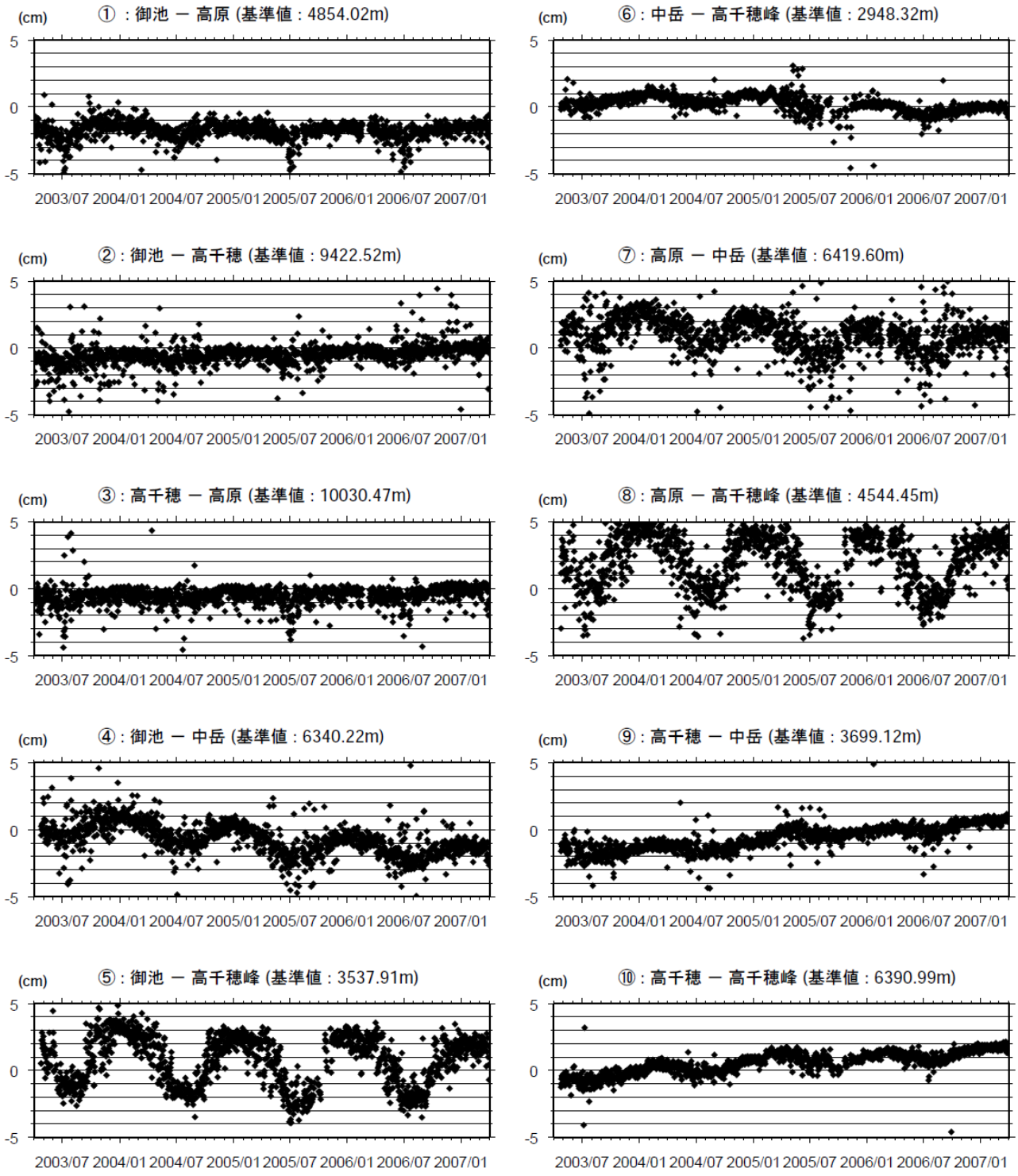


図６　霧島山（御鉢）　GPS 連続観測による基線長変化（2003 年４月～2007 年３月）

・長期的には、中岳や高千穂峰の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

＊概ね１年周期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

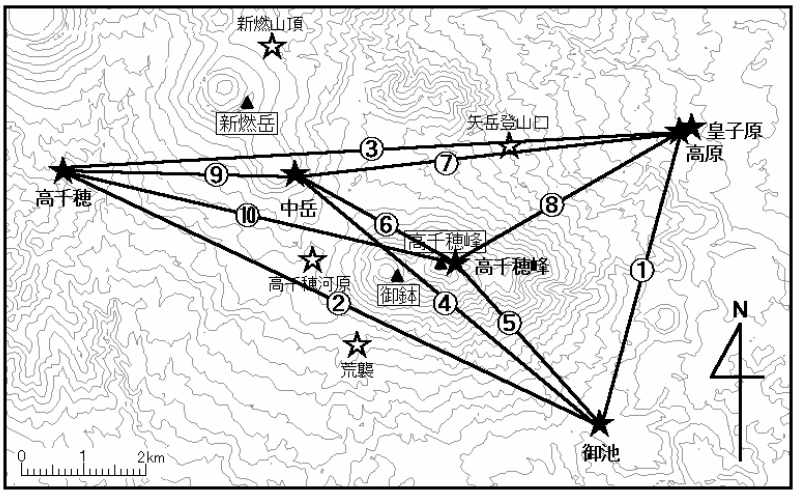


図７　霧島山　GPS 連続観測点と基線番号
御鉢を囲んだ観測点の基線による観測を行っています。この基線は図６の①～⑩に対応しています。

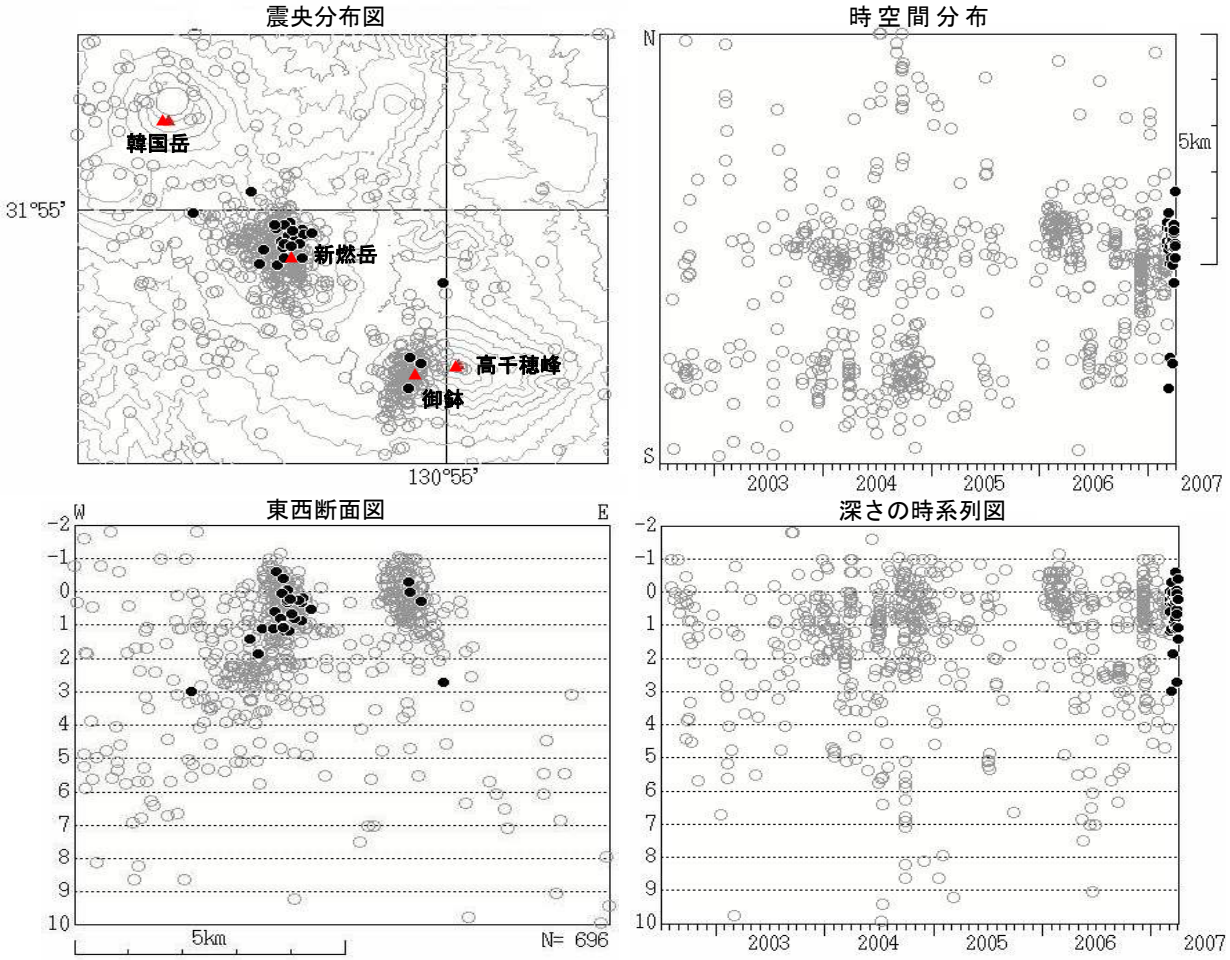


図８※　霧島山　震源分布図（2002 年７月～2007 年３月）
・御鉢付近で発生した地震の震源は３個求まり、海抜０m 付近に分布しています。
・新燃岳付近で発生した地震の震源は、新燃岳直下の深さ０～２km 付近に分布しています。

＊今期間の震源は黒丸で表示しています。